

学校教育目標	夢を追い、自らを高めよ ー学べ・磨け・輝けー
目指す学校像	○生徒と教師の笑顔があふれる学校 ○居場所のある学校
重点目標	1 「学び方」と「教え方」を両輪とした授業改革でエージェンシーを育成 2 「寄り添い 導き 見届ける」教育で一人ひとりのWell-beingを実現 3 地域を大切に、地域と共に成長し、地域に貢献できる生徒の育成 4 安心・安全できれいな学校づくりと適正な予算管理 5 「自ら学び、共に高め合う」教職員集団の育成と一人ひとりに応じた働き方改革

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標			年度評価				実施日令和8年2月24日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○市学習状況調査では、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」及び「授業では、自分に合った教え方、教材、時間になっている」の項目に肯定的な回答をした生徒の割合について、市平均と比べ、低い傾向が見られる。 (課題) ○文章やグラフなどのデータを踏まえ、自分の考えたことを自分の言葉で表現することが課題である。	学習習慣の定着	①問題演習や小テストなどの実施及びそれらの結果を分析し、授業改善につなげる。 ②授業や家庭学習について、自分の学び方を振り返る機会を設定し、自分に合った学び方を見つけられるようにする。	①市学習状況調査において、「授業がよく分かる」の項目に肯定的な回答をした生徒の割合が増加したか。 ②本校独自の生徒調査において、「自分に合った学び方を見つけた」の項目に肯定的な回答をした生徒の割合が80%以上になったか。	①市学習状況調査の結果(暫定値)では、評価指標において、1学年は国・社、2学年は数・理、3学年は国・数・社で目標を達成することができた。 ②生徒評価の結果では、指標項目において、肯定的な回答をした割合は66.0%であり目標を達成することができなかった。	B	○個別最適な授業改善と併せ、家庭での学習の充実が必要となる。そのためには、学習に対するカウンセリングを設けたり、そのためのデータ収集を図ったりする取組を進めていくことが重要である。	・市学習状況調査の結果から、個別最適化ということの難しさを改めて感じる。また、学力は小・中学校の9年間を見通した学びの連続性が大切である。 ・授業だけでなく家庭学習の充実を図るとともに、各教科における興味のもとせ方についても検討していく必要がある。
		学習意欲の向上を目指した授業改善	①各教科等において、自分の考えを自分の言葉で表現する機会を確保する。 ②生徒が自分に適した学びで取り組む学習環境を意識した授業改善を行う。	①市学習状況調査において、「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」の項目に肯定的な回答をした生徒の割合が増加したか。	①市学習状況調査の結果(暫定値)では、評価指標において、前年度比で1学年は+1.3、2学年は+4.3、3学年は-2.8であり、1・2学年は目標を達成することができた。	B	○「分かる・できる」喜びを味わわせることで次の学習への意欲が高まることも多い。自分で表現することで理解を深められる授業を継続する。	
2	(現状) ○市学習状況調査では、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」及び「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」の項目に肯定的な回答をした生徒の割合は、市平均を上回っている。 (課題) ○指示された活動等には、丁寧に粘り強く取り組める生徒が多い一方で、自分で考え、判断し行動することに苦手意識をもつ生徒が少なくない。 ○自分から悩み事を相談することにためらいを感じる生徒が少なくない。	生徒一人ひとりの自己肯定感を高める教育の推進	①生徒会を核とする生徒発、生徒着のいじめ防止対策、校則見直し、あいさつ運動等を実践し、保護者及び地域へ発信する。 ②学校・学年行事、学級活動を通して、一人ひとりの生徒に「伸びる」チャンスを与え、達成感を味わわせる活動を創出する。	①市学習状況調査において、教員からの支援に関する項目に肯定的な回答割合が90%以上であったか。 ②学校自己評価に係る生徒評価において、「学校生活は楽しく充実している」項目に肯定的な回答が90%以上となったか。	①市学習状況調査の結果(暫定値)では、評価指標において、2・3学年は目標を達成することができた。 ②生徒評価の結果では、評価指標において、肯定的な回答をした割合は99%であり、目標を達成することができた。	A	○「先生は、あなたのよいところを認めてくれる」と感じている生徒の割合は高い水準であるが、自己肯定感を高めるための土台となる事柄であるため、より一層一人ひとりのよきを見取り、伝えていくことが必要である。	・市学習状況調査結果から、先生からのほげまじや支援を受けていると肯定的に回答した生徒が9割を超えるのはすばらしい、地域としてもありがたい、生徒が先生から褒められているということは地域でも認識がある。 ・おはようメーターは是非、しっかりと入力し、有効に活用し生徒の支援につなげてほしい。
		生徒が安心して学べる教育環境の充実	①スクールダッシュボード「おはようメータ」を活用し、心と体の健康状態をきめ細やかな把握に努める。 ②Solaる一む(コミュニティルーム)を適切に運用し、SC・さわやか相談員・SSW・関係諸機関と連携した心のサポート体制を強化する。	①市学習状況調査において、「困ったり、悩んだりしたときには、誰かに相談しようと思う」の項目に肯定的な回答割合が増加したか。 ②学校自己評価に係る保護者評価項目「お子さんは、自分の感情をコントロールしている」の肯定的な回答割合が増加したか。	①市学習状況調査の結果(暫定値)では、評価指標において、前年度比で1学年は-1.5、2学年は+5.4、3学年は0.6であり、2学年は目標を達成することができた。 ②保護者評価の結果では、評価指標において、肯定的な回答の割合は77%(前年度比+2)であり、目標を達成することができた。	B	○スクールダッシュボード「おはようメータ」への生徒の入力を徹底させることが課題である。登校時にしっかりと入力できる時間を確保し、教員が生徒の心の状況をきめ細やかに把握できる体制の構築が急務である。	
3	(現状) ○市学習状況調査では、「今住んでいる地域の行事に参加している」の項目に肯定的な回答をした生徒の割合は、市平均を上回っている。 ○市学習状況調査では、「この1年間に、ボランティア活動に参加したことがある」の項目に肯定的な回答をした生徒の割合に改善が見られる。 (課題) ○中学生として、地域を支える側の人材に成り得るという意識を醸成していくが課題である。	地域と関わる具体的な取組の実施	①学校地域連携コーディネーターを核とした地域交流及び地域貢献活動を実施する。	①一年間にボランティアに参加した生徒の割合が向上したか。 ②地域等からのボランティア申請団体の数が増加したか。	①評価指標において、1学年36%(43%)、2学年31%(44%)、3学年38%(30%)であり、3学年は目標を達成することができた。 ②ボランティア申請団体数については、46(36)であり、目標を達成することができた。	B	○ボランティアの取組が2年目となり、来年度以降、生徒の自発的な参加を促す方法の工夫改善が必要である。	・ボランティアする生徒としない生徒の二極化傾向がある実態から、しない生徒へのはたらきかけの工夫を地域でも検討したい。 ・校内でできるボランティアやPTAとも連携することで少しでも多くの生徒が参加できる工夫が考えられる。
		課題解決のための話し合い及び情報発信	①学校運営協議会において、生徒と委員が直接意見交換できる場を設定し、生徒の提案をもとに意見交換を行うとともに、その内容についての情報発信の充実を図る。	①生徒と委員の話し合いで意見交換を行うことができたか。 ②コミュニティ・スクール通信を学校運営協議会後、毎回発行することができたか。	①第2回学校運営協議会において、生徒会役員が提案し、委員との意見交換の機会を設けた。 ②今年度は、「コミュニティスクールだより」として、8月に10号、12月に11号を発行し、3月に12号を発行する予定である。	A	○生徒提案の実現に向け、企画書の作成及び関係団体等との意見交換の在り方等に取り組んでいく必要がある。	
4	(現状) ○学校自己評価に係る保護者評価項目「安心・安全な生活環境を提供」の肯定的な回答割合は89%であった。 ○市学習状況調査では、「この1年間に、ボランティア活動に参加したことがある」の項目に肯定的な回答をした生徒の割合に改善が見られる。 (課題) ○中学生として、地域を支える側の人材に成り得るという意識を醸成していくが課題である。	安心で安全な施設管理	①点検表に基づく安全点検を年11回実施し、危険箇所の早期発見及び修繕等を迅速に行う。 ②意図的・計画的な校内巡視を毎日を行う。	①学校自己評価に係る保護者評価項目「安心・安全な生活環境を提供」の肯定的な回答割合が維持・増加したか。 ②修繕が必要な箇所について、速やかに対応することができたか。	①保護者評価の結果では、評価指標において、肯定的な回答の割合は91%(前年度比+2)であり、目標を達成することができた。 ②修繕が必要な箇所について、修繕費との兼ね合いから対応の難しいものもあった。	A	○今年度、校庭に埋没した釘等の除去を行ったが、テニスコートや体育館等の安全に関わる施設整備を進めていく。	・トイレの改修工事等も無事に終わるきれいになってよかったと感じる。 ・設備面以外の面においてはPTAも連携をしていながら少しでも環境がよくなるようにしていきたい。
		適正な予算の管理	①年間を見通した予算計画を立案する。 ②予算執行状況等について、定期的に情報共有し、効果的な予算執行を行う。	①学校自己評価に係る教職員評価項目「予算の有効活用」の得点が3.00/4以上になったか。	①教職員評価の結果では、評価指標において、得点が3.67/4であり、目標を達成することができた。	A	○限られた予算を有効に活用するには、中期的な見通しに立った計画的執行に努めていく必要がある。	
5	(現状) ○生徒の笑顔は、教師が笑顔で働ける職場でこそ生まれるとの考えに立ち、教員が働きやすい環境づくりに取り組んできた。昨年度の学校評価では「分掌組織は十分に機能し、バランスが取れていた」において肯定的な回答は90%であった。 (課題) ○経験年数の浅い教員が増えたことにより、教育水準の維持・向上を図るための研修体制を構築し、運用していくことが必要である。	働きやすい職場づくりの推進	①校務分掌の平準化を図り、業務の遂行状況を定期的に把握・調整を行う。 ②各種会議資料及び保護者配付文書の電子化(スクリレ)を進め、印刷製本業務の縮減を図る。	①学校自己評価における教職員評価項目「分掌の偏りが軽減」「分掌の種類や数が適切」の得点が向上したか。	①教職員評価の結果では、評価指標において、得点がそれぞれ2.60/4(前年度比-0.05)、2.70/4(前年度比-0.22)であり、目標を達成できなかった。	B	○ICT関連機器の入れ替えや個人情報保護の観点から、一部の分掌への業務の偏りが見られたため、業務分担を見直していく必要がある。	・いわゆる「ITメンター」の常時配置があったりすると先生方も助かるのではないかと感じる。 ・プラットフォームでのオンライン研修も増え、少しずつ内容が充実した研修が増えてきているので、活用させていけるとよい。
		教職員一人ひとりに応じた研修の奨励	①研修受講履歴システム及び教員研修プラットフォームを活用する。 ②対話による研修受講奨励を行い、自身の資質・向上に応じた研修に取り組む。	①教員研修プラットフォームを活用した教職員が増加したか。 ②対話による研修受講奨励により、一人ひとりが必要な研修を把握することができたか。	①プラットフォームを活用した教職員の割合は23.3%(前年度比+13.7)であり、目標を達成することができた。 ②夏の研修会をはじめ、一人ひとりが必要とする研修に取り組めた。	A	○教職員一人ひとりが自分の強みと課題を自覚し、それぞれを向上させていくための研修の機会を設定する必要がある。	

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心のサポートに関する取組

地域とともに関わる取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組